南小だより

櫛引南小学校
令和８年２月２５日

一人一人の小さなオリンピック

校 長　　奥山　徹

この２月、日本中は「ミラノ・コルティナ冬季オリンピック」の熱気に包まれました。さまざまな種目でドラマティックな展開が見られましたが、みなさんはどの場面が印象に残っているでしょうか。

スノーボードでは、戸塚優斗選手、木村葵来選手、村瀬心椛選手、深田茉莉選手の日本人４人が金メダルを獲得するという快挙がありました。フィギュアスケートでは、りくりゅうペアがショート５位から逆転して金メダルをつかむ劇的な展開を見せました。スキージャンプ団体では、北京大会で悔しい経験をした高梨沙羅選手が大きく活躍し、混合団体で銅メダルを獲得。日本チームに明るい話題をもたらしました。また、メダルには届かなくても、最後まで諦めず挑み続ける選手たちの姿は、多くの人に「努力の尊さ」と「挑戦する勇気」を示してくれました。

その感動の裏には、表には見えない多くの支えがあることは言うまでもありません。選手の体調管理や用具の調整を行うスタッフ、練習環境を整える人々、日々寄り添い続けるコーチ。どの選手の輝きの背後にも、気づかれにくい『影の応援団』がいるのだと、改めて気づかされました。

さらに今回の大会を大きく支えていたのが、ボランティアの皆さんです。競技会場だけでなく、街中での案内、交通整理、選手へのサポートなど、多岐にわたる活動が行われました。特に屋外競技における設備の設置や整備は、極寒の中、夜を徹して行われていたそうです。「誰かのために動く」というボランティアの力が、世界中に笑顔と安心を生み出していたことは間違いありません。ボランティアの方々もまた、紛れもなく『影の応援団』です。

大きな挑戦に立ち向かう気持ち、最後まで頑張ろうとする意志、周囲への感謝を忘れない姿勢――それらはすべて、子どもたちの日々の生活の中にある“小さなオリンピック”だと考えています。

毎日の学習、友達との関わり、一つ一つできることが増えていく過程には、大きなものから小さなものまで多くの価値があります。目には見えず形もありませんが、子どもたちはさまざまな色のメダルを手に入れているのです。成功だけでなく、悔しい経験や失敗も、すべてが子どもたちの未来をつくる大切な一歩です。そして、その挑戦をいつも励まし、見守り続けてくださる「保護者の皆さん」「地域の方々」という頼もしい『影の応援団』もいます。まさに、毎日が『Kusibiki Minami オリンピック』なのではないでしょうか。

これからも、子どもたちがそれぞれの“オリンピック”を歩んでいけるよう、皆さまとともに全力で支えていきたいと願っております。